

売上高2796億円、最高

9月中旬ドラッグストア好調

バローホールディングス（HD）が8日発表した2018年9月中旬連結決算は、売上高に相当する営業収益が前年同期比3・4%増の2796億700万円となり、過去最高を更新した。増収は24期連続。好調

が続くドラッグストア（DS）事業がけん引したほか、主力のスーパーマーケット（SM）事業も店舗改装で収益が改善。営業、経常、純利益とも2期ぶりの増益となった。

SM事業は、14店舗を改

装し、精肉や鮮魚、青果の売り場を強化したほか、新しい総菜メニューを導入。改装効果で売上高は1・6%増えた。DS事業は、岐阜、愛知を中心に18店舗を新設するなど積極的に出店し、売上高は8・4%増加。ホームセンター（HC）事業は建築資材やアウトドア用品の販売が伸び、売上高は2・0%増えた。

スポーツクラブ事業は、低価格で人気のフィットネスイム「アクトスウィーリング（ウィルジ）」の新規出店を強化し、テニスクラブなども含めて計25店舗を新設。売上高は15・3%増となったものの、新設店の開業費用がかさんで

営業利益は14・1%減だった。

損益面では、SM事業の営業利益が改装店舗の利益率の改善で23・7%の増益。グループ全体でも横断的な経費管理を進め、利益を確保した。

上期の新規出店は49店舗、閉鎖は8店舗で、グループの9月末の総店舗数は840となった。

通期は、下期に39店舗を新設し、積極出店を継続。SM事業の改装効果もあり、増収増益を見込む。